

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	福祉型児童発達支援センター 千葉市療育センター やまびこルーム			
○保護者評価実施期間	令和7年1月17日 ～ 令和7年 1月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48名	(回答者数)	35名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 10日 ～ 令和7年 2月 14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・県内唯一の難聴乳幼児を対象とした児童発達支援センターであること(専門性が高い)	・お子様の状況を個別指導、グループ指導の複数の観点から評価し、保護者のニーズを確認した上で、個別支援計画を作成し、それに基づき、難聴児療育(聴力検査、補聴器調整、環境整備等を含めて)を実践している。	・外部研修に積極的に参加し、内部研修をていねいに行い、職員の専門性の向上を図る。 ・プレハブ仮校舎ではあるが、できる限り防音対策など、音環境を整えるように努める。
2	・保護者からの「共感的に支援されている」と評価された保護者支援の手厚さ	・保護者の話をよく聞き、お子様の状況について共有し、助言を行っている。 ・保護者のニーズに沿った情報提供を心がけている。保護者セミナーを毎月開催し、必要と思われる情報提供をしている。また、保護者懇談や、個々の利用者同士のセッティングなど、難聴児の数が少ないからこそ、その保護者同士の交流を大切にしている。・共働き家庭が療育に参加しやすいように2ヶ月前の日程調整、振替対応などを行っている。	・保護者懇談等の保護者同士の交流については、ニーズを掘り下げ、そのやり方等も再度見直し、充実を図る。 ・行事などでの取り組みも含め、兄弟支援、家族支援の幅を広げる。 ・個別指導、グループ指導など、利用児に複数の職員が関わるため、意識的に情報共有をはかる。

3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用児が併行通園している幼稚園・保育園、また医療機関などの関係機関との連携をていねいに行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併行通園先の幼稚園・保育園等関係機関とこまめに連絡をとり、(年度はじめ、おわりだけでなく、何か気になることがあった時など) 情報共有ができる関係性を築いている</li> <li>・関係機関との連携は個々の利用者や園の状況に合わせて、具体的に行っている</li> <li>・公開療育を毎年実施し、聴覚障害の啓もうに努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、園にご迷惑がかからないよう留意しながら、訪問、電話等で、併行通園しているお子様の情報を共有し、環境整備を含め、地域集団の中での配慮等についての理解を求めている。</li> <li>・公開療育の内容の充実を図り、利用児の関係先だけでなく、地域における難聴理解の拡がりに努める。</li> </ul>
---	--	---	---

	<p>事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>職員の異動等で難聴児療育の経験が積み重ねにくい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難聴児療育歴が浅い(3年程度)職員がほとんどである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難聴児療育における知識、スキルを全職員で共有し、差がないように努めていく。</li> <li>・誰でもわかるようにマニュアル化を行う。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内唯一の難聴児を対象とした児童発達支援センターであるが故に、他施設と競合することがない。変革(より向上することも含め)の視点が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他施設を知らないため、自施設の課題、問題点に気づけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携している県内の聾学校乳幼児教育相談の見学や研修に参加したり、他県の難聴児を対象とした児童発達支援センターの見学や研修会に参加するなど、他施設の取り組み、状況を知る機会を積極的に活用する。</li> <li>・自施設の課題を知り、それに向き合う。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・併行通園のため、利用頻度が少ない。そのため、療育の中で積み重ねていくことが難しい。こども同士、保護者同士のつながりが作りにくい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き家庭が多く、保護者が仕事を休んで、療育に連れてこられる回数が限られている。限られた回数の中では、個別指導が優先となり、グループへ活動の継続的な参加が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ活動の選択肢(日程)を増やし、少人数であっても、こども同士、保護者同士の交流の場を設ける。</li> <li>・土日の行事や、Zoomを利用した保護者セミナー、テーマ別保護者懇談など、保護者が参加しやすい活動を企画する。</li> </ul>